

## 5月上旬移植「コシヒカリ」における高密度播種育苗栽培技術

農業総合センター 農業研究所

### 【研究の概要】

水稻の高密度播種育苗栽培技術は、播種量を育苗箱あたり250~300gとし、短期間育苗して移植することで使用する育苗箱枚数を削減できます。

本技術は省力・低コスト技術として注目されており、5月上旬移植「コシヒカリ」で本県での適応性を明らかにしました。その結果、高密度播種育苗栽培技術は、収量・品質が慣行栽培の同等以上であり、育苗等にかかる費用の削減が可能でした。



150g/箱 250g/箱 300g/箱  
(慣行播種) (高密度播種)

播種量を増量した様子

### 【研究内容】

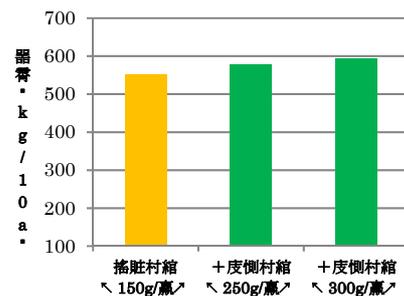
- ① 苗質に与える影響…苗丈、葉齢、老化程度を調査し、播種量と苗質の関係性や、適切な育苗日数を明らかにしました。
- ② 収量・品質に与える影響…高密度播種育苗栽培技術が収量・品質に与える影響を明らかにしました。
- ③ 経営的効果の評価…使用育苗箱枚数、育苗日数をもとに育苗や移植に要する費用削減効果を明らかにしました。



健全苗(左)の  
老化・枯死が進む様子

### 【研究成果】

- ① 苗質に与える影響…高密度播種育苗した苗は、苗丈がやや徒長し、葉の展開がやや遅れます。苗の老化を防ぐため、育苗期間は原則3週間以内とします。
- ② 収量・品質に与える影響…収量は慣行栽培と同等以上で(右図)、品質についても同様の傾向が見られます。
- ③ 経営的効果の評価…使用育苗箱枚数が減り育苗期間も短くなることで、育苗に係る資材費や労働費が抑えられ、慣行栽培に比べ17~25%の費用が削減できます。



播種量と収量の関係

### 【将来の展望】

担い手が減少し、1人当たりの耕地面積が拡大するなか、高密度播種育苗栽培技術は費用をかけずに大面積に対応できる省力・低コスト技術です。本技術は県内で既に2,200ha以上普及しており(※うち、250g/箱以上播種面積は約1,700ha、平成30年農業総合センターによる調査)、今後も高密度播種育苗栽培技術の普及拡大が予想されます。